

インド出張報告

2016年11月8日

インドのデリーにおいて開催されたアジア防災閣僚会議開会式（11月3日）、そのプレ会合としての世界津波の日特別セッション（11月2日）、IPU国会議員会議（11月2日）への出席、及びインドなどの懇談のため二階俊博自民党幹事長、林幹雄幹事長代理に同行してまいりました。

アジア防災閣僚会議は、昨年仙台において開催された第三回国連防災世界会議（10年に1度開催）で採択された国際的な防災基本指針となる「仙台防災枠組（2015—2030）」の実施に向けてのアジアにおける取り組みについての各国の報告、意見交換を行う場として開催されました。同会議の開会式においてはアジア各国の代表者や政府関係者が多数集まった中、二階幹事長が挨拶に立ちました。開会式において開催国の首脳（インドはモディ首相、シン内相）、国連の防災関係代表者以外に挨拶に立つことは異例とされています。

また、11月5日は「世界津波の日」です。昨年の12月国連で制定が決まりました。二階幹事長を先頭にした日本の主導によって制定されました。

1854年11月5日（陰暦）南海大地震が発生します。その地震によって誘発された大津波が、南海地方を襲いました。紀州の広村というところで、その津波に機転と行動力で立ち向かい、多くの村人の命を救った人物がいます。浜口梧陵（儀兵衛）です。さらに、浜口は私財をなげうち、次の災害に備えて海岸沿いに堤防まで築きました。明治三陸津波が発生した1896年、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）がこの逸話をもとに「生神様（A Living God）」という作品を発表します。英文で書かれたこの作品は世界でも読まれました。さらに、この作品をもとに教科書用にまとめられたのが「稲むらの火」です。この「稲むらの火」は、文部省の小学国語読本に掲載され、子供たちの防災教材ともなりました。「世界津波の日」は、浜口梧陵の逸話が出発点となっています。

今年は、「世界津波の日」元年にもあたることから、アジア防災閣僚会議のプレセッションとして世界津波の日特別セッションが開催され、さらに大使公邸において日本政府主催歓迎レセプションも行われました。

IPU国会議員会議には私が出席をし、防災、減災に果たす政治家の役割について東日本大震災の経験も踏まえ話をさせていただきました。

アジアは、台風、サイクロン、大雨による洪水をはじめ、地震、津波、火山爆発などによって、世界でもっとも天災による被害が集中する地域でもあります。特に、日本列島はその立地の特異性から、繰り返し多くの天災に襲われてきました。今年も熊本地震、秋の台風被害など多くの天災に見舞われています。

日本の歴史は天災との闘いの歴史でもあります。この経験をもとにわが国のさらなる強靱化をはかるとともに、アジア各国の天災にも取り組んでいかなければならないことを実感した一連の会議でした。

写真 1

IPU 国会議員会議でのプレゼンテーション



写真 2

IPU 国会議員会議のパネラーの皆さんと



写真 3

「世界津波の日」特別セッションにて。東北大学の今村教授らとともに。



写真 4

大使公邸で開催された政府主催のレセプションでは乾杯の音頭をとりました。



写真 5

アジア防災閣僚会議開会式会場にて（後ろは平松大使）



写真 6

アジア防災閣僚会議開会式会場



写真 7

グラスジャー国連事務総長特別代表（防災担当）との懇談会を終えて



写真 8

ラジナート・シン内相との懇談会



写真 9

インドセンターにて



写真 10

大使公邸にて二階幹事長ぶらさがり記者会見



写真 1 1

帰国後安倍総理にインド出張報告（官邸にて 11 月 7 日）

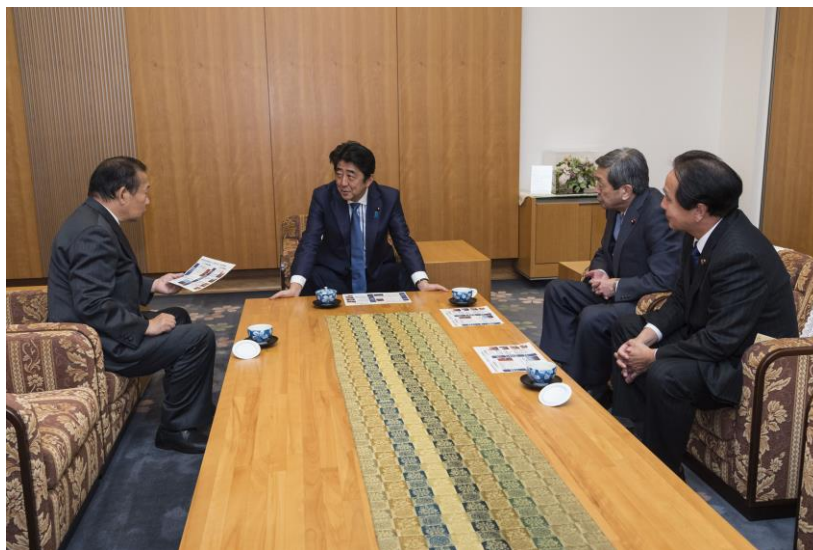


写真 1 2

デリーは連日記録的な大気汚染。ホテルの窓からの朝の景色はほとんどかすんだ状況

